

大郷町復興まちづくり事業住民説明会

日時 令和6年5月28日（火）
午後6時30分～
会場 大郷町文化会館 大ホール

次 第

1 開 会

2 開会挨拶 大郷町長 田中 学

3 来賓挨拶

4 来賓紹介

5 説 明

(1)大郷町復興まちづくり事業について

- ①堤防復旧・改修事業（説明員：北上川下流河川事務所職員）
- ②宅地嵩上げ安全確保事業・中村原団地造成工事（説明員：復興推進課職員）
- ③防災コミュニティセンター建築工事（説明員：復興推進課職員）
- ④大郷町かわまちづくり計画（説明員：復興推進課職員）

(2)おおさとスマートスポーツパーク構想について

- ①おおさとスマートスポーツパーク構想全体計画（説明員：復興推進課職員）
- ②大郷町SSP事業（説明員：スポーツX㈱社員）
- ③農業団地整備計画（説明員：復興推進課職員）

6 質疑応答

7 閉会挨拶 大郷町 副町長 金須 豊洋

8 閉 会

— ✕ 七 —

[illegible]

大郷町復興まちづくり事業 住 民 説 明 会

令和6年5月28日



○本日の説明会の概要

被災から約5年が経過し、復興事業として様々な工事などが着々と完了してきたことから、被災から本日に至るまでの復興の歩みをご説明させていただきます。

また、「未来の大郷町」のまちづくりのため、今後予定する事業についてご説明させていただき、町民の皆様からご理解をいただき、円滑な事業展開を図りたいと考えています。

項目	
第1部 大郷町復興まちづくり事業について	
	1 堤防復旧・改修事業及び吉田川河道掘削工事について
	2 宅地嵩上げ安全確保事業・中村原団地造成工事について
	3 防災コミュニティセンター建築工事について
	4 大郷町かわまちづくり計画について
第2部 おおさとスマートスポーツパーク構想について	
	1 おおさとスマートスポーツパーク構想全体計画について
	2 大郷町SSP事業について
	3 農業団地整備計画について

第1部 大郷町復興まちづくり事業について

1 堤防復旧・改修事業及び吉田川河道掘削工事について

吉田川左岸20.9k 大郷町粕川地区の堤防決壊

北上川下流河川事務所

■堤防決壊箇所
吉田川左岸20.9k(大郷町粕川字伝三郎地先)



決壊箇所全景



決壊箇所下流側



決壊箇所上流側

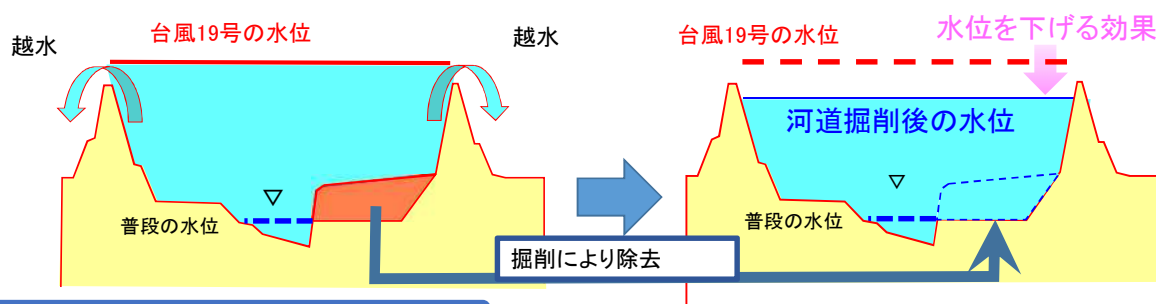


吉田川河道掘削工事

令和元年東日本台風への対応

概要

令和元年東日本台風に伴う洪水で吉田川では33箇所で越水が発生しました。川の中に堆積した土砂を掘削し除去することで水を流れやすくし、水位の上昇を抑制します。掘削した箇所だけでなく上流の水位も下げる効果があります。

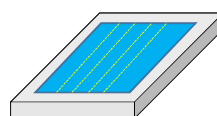


工事で掘削した土砂の量の合計



÷

小学校のプール



× 約1729杯分

※25m × 16m × 1.2mで計算

本工事完了により、合計で約83万m³の土砂を掘削しました。(令和6年3月現在)

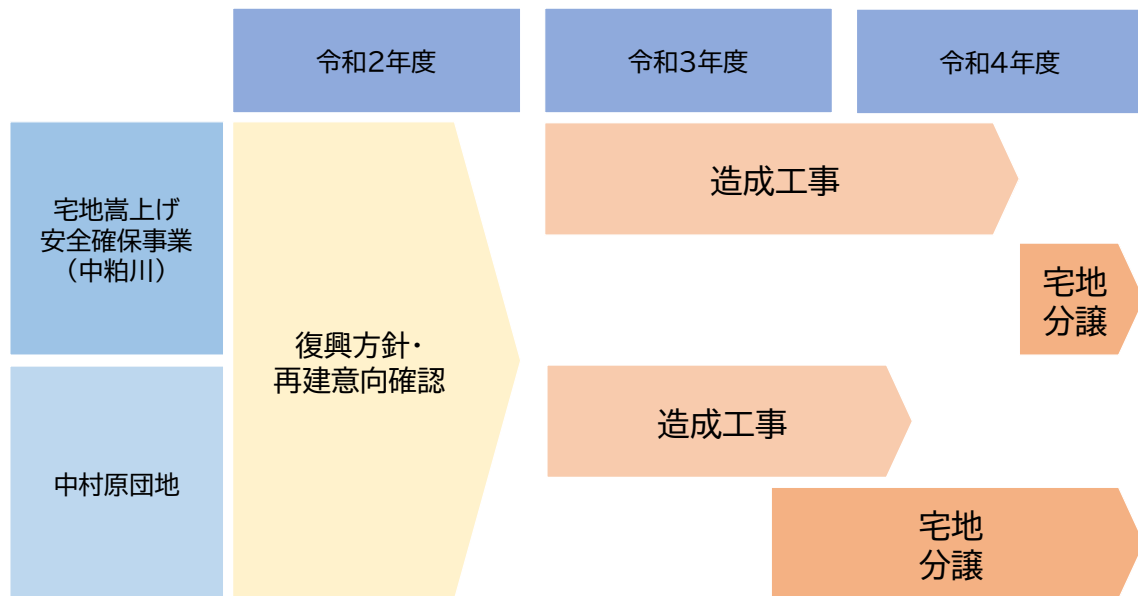


粕川地区 堤防整備(引堤) 進捗状況



第1部 大郷町復興まちづくり事業について

2 宅地嵩上げ安全確保事業・中村原団地造成工事について



(1)中粕川嵩上げ宅地

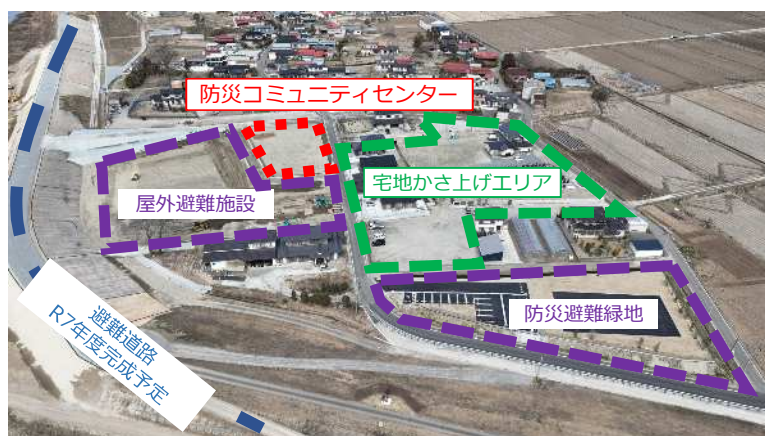
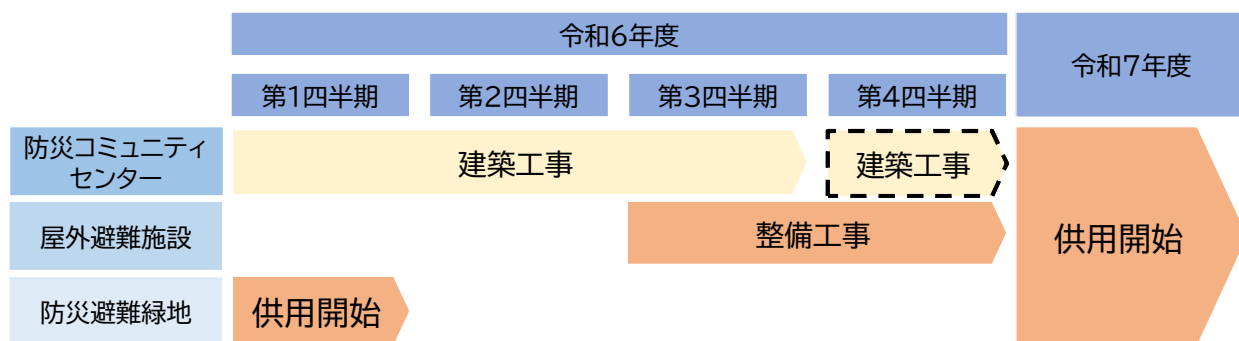


(2)中村原団地

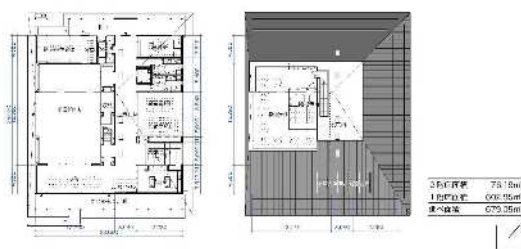


第1部 大郷町復興まちづくり事業について

3 防災コミュニティセンター建築工事について



配置図 S=1/800



平面図 S=1/500

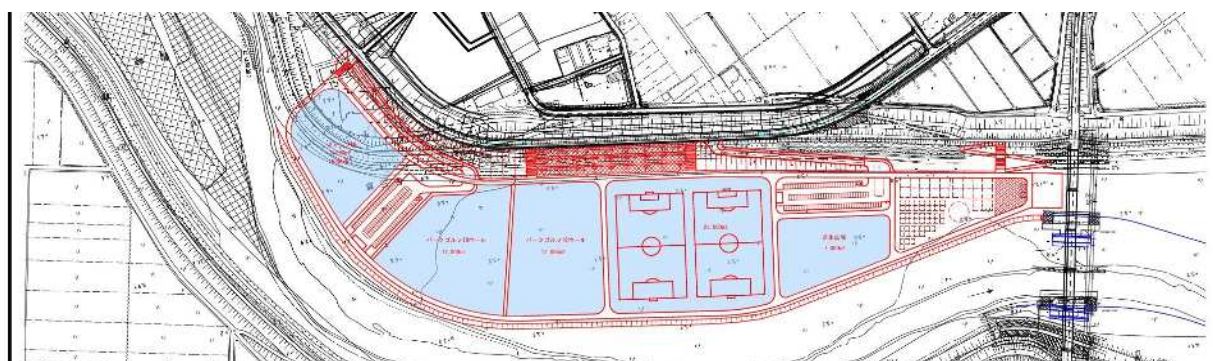
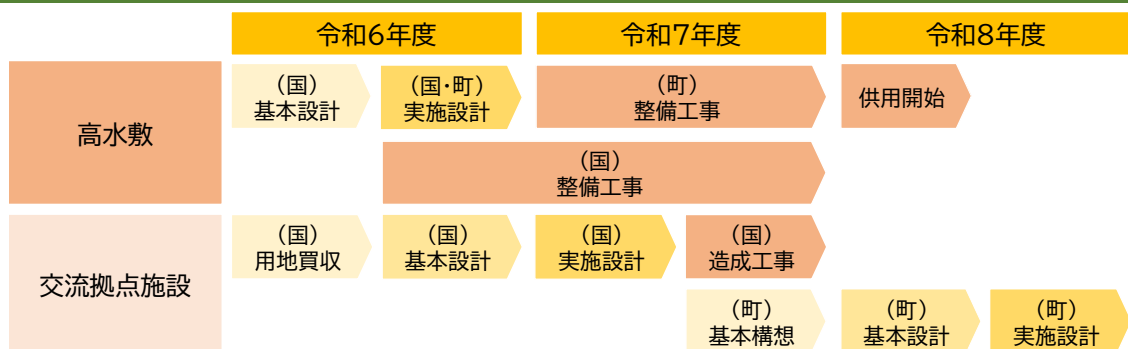


立面図 S=1/500



第1部 大郷町復興まちづくり事業について

4 大郷町かわまちづくり計画について



※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。



※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

第2部 おおさとスマートスポーツパーク構想について

1 おおさとスマートスポーツパーク構想全体計画について

(1) 事業のねらいと目的

- 中粕川地区の約55haに、大郷町の基幹産業である農業が抱える諸問題の解決を図るため、新たな地域振興施策を強力に後押しする“**地域振興交流拠点**”の実現を目指します。
- 『おおさとスマートスポーツパーク構想』(以下、SSP構想と称す。)は、官民一体による“**農業振興**”×“**スポーツ振興**”を柱に
 - ①都市住民と町民との交流促進
 - ②町内農業者等との協力・連携
 - ③中粕川地区の復興まちづくりやかわまちづくり事業と連携 等
 により、地域の活性化を図ります。
- スマート農業を実践する法人の誘致や新たな“**地元農産物のサプライチェーン**”の構築により、持続的な営農環境や農地の保全、活用を図ります。

大郷町町が抱える諸問題

人口減少・流出

農業の担い手不足

農業従事者の高齢化

問題解決の一翼を担う
新たな地域振興策の実現が必要

図 大郷町が抱える諸問題



図 おおさとスマートスポーツパーク構想の配置

(2) 機能構成の考え方

- 『SSP構想』を実現するためには、①**農村と都市の交流拠点**、②**農業を中心とした観光・にぎわい拠点**、③**新たな農業の生産拠点**、④**農産物サプライチェーン拠点**、で構成し、これらの機能導入を目指します。

おおさとスマートスポーツパーク構想(SSP構想)

●農村と都市の交流拠点

・農業体験・スポーツ、イベント等による交流

●農業を中心とした観光・にぎわい拠点

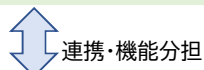
・地産地消レストラン・宿泊によるにぎわい・魅力創出/かわまちづくり事業・まちなかの連携

●新たな農業の生産拠点

・スマート農業(ITを駆使した農業、施設園芸等)による産地化

●農産物サプライチェーン拠点

・生産から処理加工、流通・販路までの一団地化



【大郷町かわまちづくり事業】

農村と都市を水辺でつなぎ、交流人口の拡大を目指す

交流・体験・イベント: 多様な交流を通じて地域活性化を促進

安全・安心: 安全なまちづくりの形成、復興シンボルの創造

スポーツ・健康: スポーツを新たな観光振興として推進

農業・まちなか連携: 農業とまちなか(道の駅など)と水辺(交流拠点施設)の連携による相乗効果

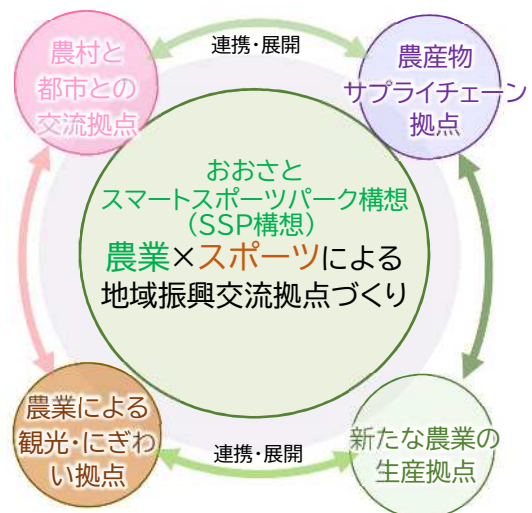


図 SSP構想の機能構成

「農業×スポーツ」一体型教育施設の開発

～兼業農家アスリートが活躍し、笑顔あふれる豊かな社会づくりに貢献する～



Copyright © 2024 SPORTS X. All Rights Reserved.

企業概要

社名	スポーツX株式会社（SPORTS X Inc.）
代表者	小山淳
資本金	11億7440万円（準備金含）
設立	2017年10月（前身は2009年 藤枝MYFC：当時J3）
本社	京都府京都市
ミッション	スポーツの力で世界中の子供たちの未来と平和な社会をつくりたい
ビジョン	スポーツを社会インフラに
主な株主	京都信用金庫（CVC）・ツネイシキャピタル 株式会社カヤック（東証グロース上場） 上場企業オーナー、電鉄会社オーナー他
事業内容	ハードインフラであるSSP（グラウンド・宿泊交流施設）、ソフトインフラであるアカデミー、トップチームの3機能を統合した「地域スポーツインフラ」を日本中・世界に展開し、連動させる。 その事業展開を通じて、人づくり・まちづくり・国づくりに貢献する。

Copyright © 2024 SPORTS X. All Rights Reserved.

大郷町SSPを通じて実現すること

SPORTS X

交流人口拡大



年間交流人口80万人・地域の持続的成長を支援
大郷町内の経済効果8億円超を実現

農業従事者拡大



30名超の労働力を確保し、農業生産能力を拡大
若い人材が就農し、人手不足・後継者不足問題を解決

雇用拡大



農閑期における雇用先／農業引退後における雇用先の創出
若い人材を世界に送り出す新しい環境（1日4時間程度～）

地域内取引拡大



年間33万食を提供するにあたり、地元の食材を積極的に活用
地元企業が潤うことにより、街全体の財政も向上させていく

Copyright © 2024 SPORTS X. All Rights Reserved.

【実施事業】アカデミー／キャンプ事業

SPORTS X

主要事業はアカデミー事業&キャンプ事業

主要事業はアカデミー事業（教育）とキャンプ事業（合宿大会・宿泊）。運営主体者となるみちのく仙台FCの練習活動に利用する他、小中高校生年代のアカデミー活動を中心に12面を活用。東北・北関東・海外をターゲットとしたスポーツ合宿大会や企業研修・修学旅行を誘致し、施設をフル活用する。

アカデミー



小中高校生年代のアカデミー活動（クラブ活動）やスクール活動（お習い事）を実施。夕方以降は多くの子どもたちが集結する。

キャンプ



当社が運営している福山施設は年間8万泊の実績。スポーツ合宿大会・企業研修・修学旅行の拠点として人が集まる施設となる。

フィールドパートナー



Jリーグクラブの活動拠点として、多くのパートナー企業と共に大郷町で事業を展開。平日も企業やファンサポーターが訪れる施設となる。

グラウンド賃貸



J5以下の公式戦は観客席が不要のため、SSP内で宮城県・東北リーグの公式戦を実施。宮城県が抱えるグラウンド不足問題を解決。

Copyright © 2024 SPORTS X. All Rights Reserved.

【アカデミー】 寄宿制アカデミー

SPORTS X



サッカートレーニング／公式戦



勉強（学校教育＋塾機能）



寮生活



農業実習・ビジネス実習

Copyright © 2024 SPORTS X. All Rights Reserved.

【アカデミー】 農業実習

SPORTS X

6年にわたり様々な農業を経験、農家を未来の選択肢に

最大216名のアカデミー生徒が、日々のカリキュラムの中で農業実習を実施する。季節ごとに異なる農産物に触れることで農業に関するリアルな知識を習得し、将来の選択肢として農業を選択する人材を育成。また繁忙期に人手が必要な農家をサポートすることで、高齢化が進む農家の生産効率を高めていく。

※参考

216名の生徒が週6時間の農作業をする計画のため、週1,296時間分の人手（≒労働力）となる。農業法人が正社員を採用する場合の1名当たりの勤務時間（週40時間）と比較した場合、アカデミー生のみで32人分の労働力となり、学習機会を創出しながら人手不足対策・人材育成を行っていく。アカデミー生の農作業は仕事ではなくアカデミーカリキュラムの一貫として実施していく予定（アルバイトではない）

1年を通して様々な農作業・農作物に触れ、農業界“でも”活躍できる人材を育成

田植え/作付け



草むしり/環境整備



収穫



選別



Copyright © 2024 SPORTS X. All Rights Reserved.

【キャンプ】スポーツ合宿大会事業

SPORTS X



大会開催・公式戦



企業研修・修学旅行



宿泊・食事



農業体験

Copyright © 2024 SPORTS X. All Rights Reserved.

【キャンプ】企業研修・修学旅行

SPORTS X

自然と施設を活用した特別なモノ・トキを提供

企業人事部や労働組合・学校法人の先生と連携しながら、社員の福利厚生やチームビルディング・モチベーションアップ・文化理解・学習環境提供などを目的とした事業を展開。



アウトドア研修
調理体験

近年ニーズが高まっているアウトドア研修では自然と触れ合う農業体験、屋外で行うBBQを中心としたサービスを提供し、普段のオフィスワークとは異なる環境下での関係性構築を図る。



運動会
スポーツ大会

会社内の縦・横・斜めの関係性をより深くするチームビルディングとして効果的な企業運動会の運営をサポート。プロ選手も一緒に混ざることでも可能で、社会人の運動不足問題の解消にも繋がる。



新人研修
役員研修
勉強合宿

新社会人・新入生としての心構えや文化を醸成する新人研修の他、会社役員が事業計画を作成する役員研修の場として大郷町SSPを提供。学校や塾に対しては隔離された環境で行う勉強合宿のサポートを行う。

Copyright © 2024 SPORTS X. All Rights Reserved.

【プロクラブ】Jリーグクラブの活動拠点

SPORTS X

選手が多能工的に営業・指導・農業を学ぶ、経験する

大郷町SSPを運営するにあたり、農業界の課題でもある「人材集め」が重要になる。当社はスポーツの力を活用し、Jリーグを目指すサッカー選手を集め、雇用し、練習環境を整備するとともに、ビジネスとして営業・サッカー指導・農業などを実施する。将来引退した選手は、スポーツXグループに籍を残したままビジネスに特化するが、農業を希望する社員「大郷町の農業」を守り伝えていく仕事を担っていく。



Copyright © 2024 SPORTS X. All Rights Reserved.

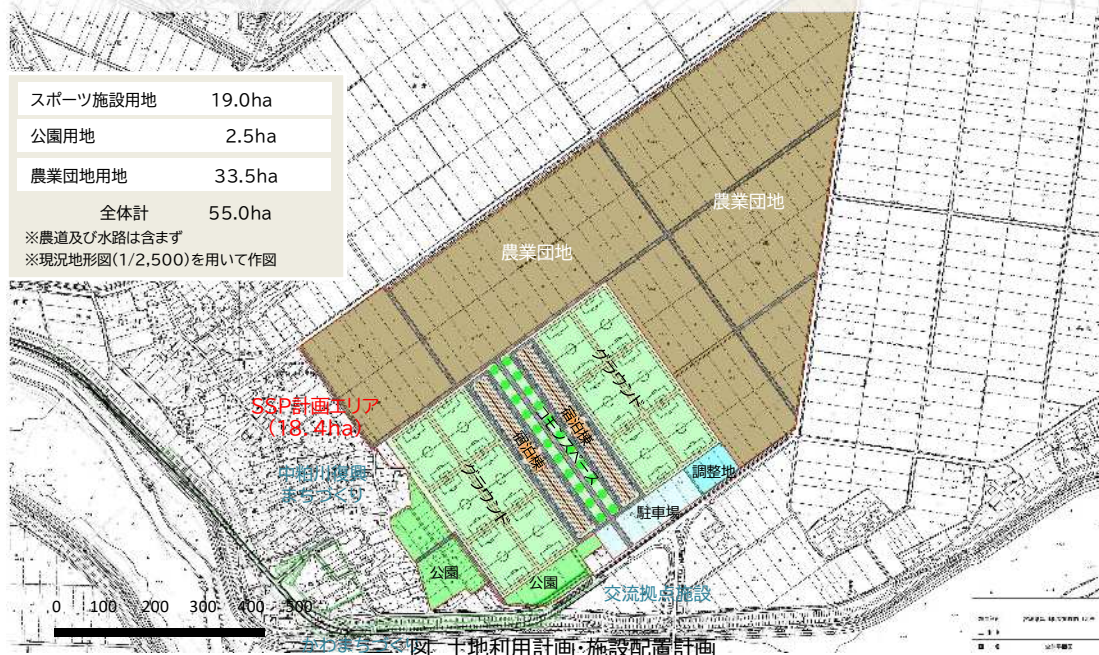
「農業×スポーツ」一体型教育施設開発

SPORTS X

19haをスポーツ関連施設とし、周辺施設と連携

開発エリアはスポーツXが大郷町から土地を賃貸

スポーツXがグラウンド・宿泊施設を開発・運営（農業外事業にて独立採算で継続可能）



Copyright © 2024 SPORTS X. All Rights Reserved.

第2部 おおさとスマートスポーツパーク構想について

3 農業団地整備計画について

(1)整備方針

- 農業振興エリアは、スマート農業等による「持続的な地域農業」を展開する用地として、参入企業に対し、ご紹介することを想定しています。
- 区画は大きく分けて2つ整備し、1つ目の区画は大規模な環境制御型園芸施設用地として30ha、2つ目の区画は営農型ソーラーシェアリングや観光農園等により農業に対し付加価値を高める用地として8haとする方針で検討を進めています。



図 環境制御型園芸施設イメージ



図 営農型ソーラーシェアリングイメージ

